

# 1 自己評価及び外部評価結果

作成日：平成24年7月23日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071000428		
法人名	社会福祉法人 桜花会		
事業所名	ライフケア大手門	ユニット名	ライフケア大手門
所在地	福岡県福岡市中央区大手門2丁目5番15号		
自己評価作成日	平成24年7月1日	評価結果市町村受理日	平成24年8月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南四丁目3番1号 博多いわいビル2階		
訪問調査日	平成24年7月21日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

看取りの経験を重ねた数年間でしたが、この一年半は入退居された方はいらっしゃいません。平均年齢は89歳となりましたが、皆様お元気に過ごされております。入居者様へは特別な日課を設けず、出来るだけご家庭に近い生活環境を整え、外出等の支援を行いながらQ.O.Lの向上、認知症の進行防止、筋力維持に努めています。また、入居者様の日々の記録を詳細にとり、御家族へも1ヶ月の御様子をお手紙で送付する等、情報の共有を図っています。今年度は新入職者もありましたが、施設長を始めとして各専門職から内部研修を行う等指導の充実を図っています。外部研修へも積極的に参加することを目標に挙げ能力向上に努めています。また、複合施設の利点を活かし、他事業所との合同行事(どんたく祭り、運動会、秋祭り等)にも参加して頂き交流を図っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ライフケア大手門は開設から13年を迎える。13年と言う歳月を感じさせないほど、ホーム内は清潔感が保たれ、6階と言う立地から、リビングや居室からの眺めも素晴らしく、ベランダからは夏の花火大会を見ることができる。開設以来、馴染みの職員でチームが作られてきたが、23年度は職員の結婚退職等が続き、職員の入れ替わりを経験した。ご利用者の生活に影響を与えない事を大切にするために、主任と新リーダー等と共に新人職員の育成を続けてこられた。先輩職員との交換ノート(育成ノート)を作成し、日々の反省や対応を書き込めるシステムが作られ、マニュアル作りにも力を注いでこられた。新人職員の不安の解消に繋がる取り組みが続けられ、少しずつ新体制が定着してきている。日々の活動では、家族の方の提案で始まったベランダでの野菜作りも年中行事となり、季節に応じて野菜の種がプランターに植えられ、大根やなす、プチトマト等が元気に育っている。収穫できたじゃがいもで“お焼き”作りも行われ、ご利用者のお力の発揮の機会となっている。今後は、おやつ作りやレクリエーションも多く取り入れ、より楽しく、より活気ある生活になるよう、職員全員で元気な取り組みを続けていく予定である。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	4項目の理念を朝礼時に読み上げ、スタッフルームに掲示するなど共有を図り、理解を深めながら実践に繋げている。	“個人の尊厳を重んじ”と言う理念の通り、ご利用者のペースで行動できるように努めてこられた。“医療と連携し”ご利用者の健康管理に努め、ベランダでの野菜作り等も行い、“質の良い福祉サービスの維持及び向上を図る”取り組みも続けられている。“地域・世代間の交流拠点”のため、傾聴ボランティアの方も来て下さっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の開催の呼びかけや、施設内の交流スペースを使用した地域との交流、地域活動への入居者の参加を通じて交流を深めている。	参加できる内容が限られてきているが、地域ふれあいサロンにご利用者が参加し、フワアアレンジメントなどを楽しんでいる。保育園の運動会や校区主催の夏祭りにも参加している。施設内で行う運動会にはボランティアの方が協力して下さり、保育園児の慰問も毎月あり、年に1回、押し花ボランティアの方もホームに来て下さっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症ケアの勉強会を行うなどしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況や入居者様個々へのサービス内容等を報告し、意見交換を行いながらサービスの向上に努めている。	家族の方に集まりやすい時間の希望や会議内容の希望を伺った。お菓子作りも取り入れ、ご利用者にも気軽に参加して頂ける雰囲気作りに努めている。24年1月には“認知症ケアシリーズ”のDVDを投影し、参加者から「勉強になりました」という言葉も聞かれた。民生委員からも、ふれあいサロンの地域情報等を教えて頂いている。	地域の方々との交流を深めるために、運営推進会議への参加を呼びかけている。商店街の方等にも声かけし、行事の時に一緒に集う機会を作り、お顔馴染みになっていくための取り組みも行う予定である
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム協議会の勉強会等を通じ取り組んでいくよう努力している。	認定の更新時などは事務長が市役所に出向いている。年に5～6回行われている勉強会(協議会)には職員が参加し、ホームの状況を報告している。月2回ほど“ふれあい相談員”の訪問も行われている。地域包括の方が会議に参加して下さり、地域高齢者の抱える課題等の情報交換も行われている。	福岡市の方に、運営推進会議等に参加して頂けるよう呼びかけを継続していく予定である。議事録を郵送すると共に、ホームでの生活状況等を含めて、ホームの取り組みを理解して頂ければと考えている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については内部研修においても学ぶ機会を設けている。また、身体拘束廃止検討委員会を設置し取り組んでいる。	ご本人の思いに寄り添うケアを続けており、スピーチロックにも配慮している。“待つケア”を心掛け、ご本人のお気持ちを大切にケアを続けている。構造上、エレベーターは暗証番号を押して開けるシステムで、1階のラウンジや散歩等の希望がある場合には、職員が付き添い、エレベーター操作をしている。	現在は外出に介助が必要な方が多いが、自由に外出できない構造上の問題に向き合っていくたいと考えられている。“自由に外出できる”と言う気持ちで生活して頂けるように、今後も引き続き、ご利用者の立場に立った“外出支援”を検討していく予定である。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は利用されている入居者様もいらっしゃる為、カンファレンスや運営推進会議においても学ぶ機会を増やしている。御家族へも制度の紹介を行っている。	22年8月に地域包括の方(運営推進会議の参加者)から制度の説明をして頂き、欠席者にはパンフレットの郵送が行われた。23年度にも制度に関する内部研修が行われている。ホームにはパンフレットを準備し、現在、制度を利用している方々もおられる。ご利用者個々の制度の必要性の検討は主任が行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約等の問題以外でも些細なことも出来るだけ相談の機会を設け説明を行い理解と納得を頂くよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より入居者様、御家族のご意見を伺える体制づくりに努め記録にとり周知、運営に反映させている。	面会が少ない方にも、毎月のお手紙や電話で報告すると共に、面会時等に意見を伺っている。敬老会と忘年会の後に家族会を行い、「～へ行きたい」と言う要望が聞けた場合は、できるだけ実現できるように努めている。洗髪の仕方についての要望も頂き、ご本人の習慣を大切にしながら、支援のあり方を家族と検討している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長、主任等との面談の機会を設け、カンファレンスにおいても話し合いを行いながら反映させていく体制をとっている。	新しい職員が増えたこともあり、新入職者育成のマニュアルの整備が行われた。主任、リーダーを中心に検討を行い、マニュアルと指導育成ノートが作成された。施設長との個人面談(年に1回)、主任とリーダーとの個別面談(年に2回及び必要時)でも職員の意見を聞きながら、新たなチームワークを作り続けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の後にはそれを元に面談を行う等向上心を持って働けるよう努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集や採用については制限はなく、勤務表作成時にはスタッフの希望を考慮したり、配置転換の希望が出せる等の配慮がある。	面接の際には、年齢や性別、資格、経験の有無等による制限はなく、笑顔や話し方等の第一印象を大切にしている。職員は年に3回以上、外部研修に参加し、プライベートの目標も毎年立て、取り組みを続けている。優しい職員が多く、料理上手などの良い所を引き出しながら、“待つケア”ができる長所も活かしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎年の研修計画に位置付け、学習や啓発の機会を確保している。	理念の中にも、“個人の尊厳を重んじ優しい笑顔と暖かい手を持って・・・”という言葉があり、内部研修(法人全体)でも年に1～2回は人権に関する研修が行われている。「法人全体で職員を支えていきたい」と施設長も考えられており、研修企画も施設長等が工夫し、外部講師も数回呼ばれている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けている。年間目標にも外部研修参加各自3回以上と掲げている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、勉強会や相互訪問活動を行い、交流を通じてサービスの向上に繋がるよう努めている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階においては特に留意し、入居者様の不安、必要とすることを伺いながら把握し、対応に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族との関係づくりにおいても同様に出るだけ話す機会を設け、状況を把握出来るよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を行いながら色々な面でアプローチを行い対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様から家事のアドバイスを受けたり、共に生活している関係として、一緒に喜怒哀楽を味わい、支えあえる関係づくりに努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけ御家族に参加して頂けるような催しを企画し、参加して頂くなかで共に支えていく関係を築いている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、入居者様の趣味活動や習慣、馴染みの人達との交流の機会が保たれるよう支援している。	センター方式も活用しながら、馴染みの方や行きたい場所を把握している。家族と自宅の草むしりを一緒にされたり、お墓参り等に行かされている。昔の職場(市場)にお連れしたり、同建物のケアハウスの馴染みの方とお話する機会もある。友人の方が尋ねてこられることもあり、傾聴ボランティアの方も一緒に外出支援を続けている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係は把握している。個々の時間も大切にしながら関わりの時間も確保できるよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設行事などの連絡を行い、参加して頂く場合もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス等において職員全員で情報提供を行い、思いや意向についても確認しながら本人本位で検討、支援している。	ソファでの団欒時や夜間の時間帯に一緒に会話をする時間を作り、思いを伺うようにしている。ご本人の寂しさにも寄り添うと共に、「～が食べたい」「～へ行きたい」「帰りたい」等の希望や意向を伺っている。日々の個別記録には、ご本人のセリフと行動、行動の原因分析、ケア内容が残され、介護計画に活かすようにしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される際に御本人の生活歴を御本人、御家族から伺い、把握した上で接するよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況に合わせる為、状態、現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、御本人、御家族、スタッフ、訪問看護等、関係者と共に話し合いながら作成している。	「居室を居心地の良い空間にしたい」との家族の提案もあり、椅子や洋服等を新たにお持ち頂き、介護計画の中にも取り入れられた。計画には“お化粧やメイクアのおしゃれを楽しむ”“ボランティアとの交流”と共に、買い物やふれあいサロン等も盛り込まれている。3表も作成され、個別援助計画も明記されている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に御本人が仰ったこと、行ったことを記録し、それを活用しながら、要望、気づきに繋げ、計画の見直しや、日々の生活に活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に合わせて出来る限り御本人、御家族の要望に応えられるような体制作りをしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	御本人の意向、必要性に応じて対応、支援をしていく体制にしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人、御家族の要望に沿う形で医療を受けて頂いている。医療関係者との関係も合わせ支援している。	通院は極力家族に協力して頂くようにしているが、家族の都合もあり、ほぼ職員が対応している。受診結果は、その日のうちに電話で行い、毎月お送りする手紙にも記載している。系列施設に看護師が勤務しており、ご利用者の健康チェックが行われている。歯科の往診もあり、訪問看護師との連携も行われている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師や協力病院の訪問看護と連携しながら健康管理に努め、必要な受診は迅速に行えるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御家族や病院関係者との情報交換、相談に努め、出来るだけ早期退院が出来るよう支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個々の状況に合わせて、御家族との話し合いが出来るようにしている。その時々状況に合わせて方針の共有を図っている。	医療行為が必要となった場合の意思確認書を基に、入居時に説明している。24時間体制の往診がないため、最期は病院(さくら病院)に転院になることの同意を頂いている。体調によってホームでの入浴が困難な場合は、相談の上で特養の申込みも行われている。状態変化時には主治医との連携に努め、頻回に家族面談が行われている。2年前に2名の終末期ケアが行われ、転院ギリギリまで精神誠意の対応をさせて頂いた。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンスや研修会を通じ急変時の対応や事故発生時の対応を学び実践に活かしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に行われる施設内の消防訓練等に参加してもらうと共に、運営推進会議を通じ地域との協力体制も築きつつある。	23年10月、ご利用者、家族、職員と一緒に夜間想定での訓練を行った。法人全体の訓練も2ヶ月に1回実施し、消防署の方も毎年来て下さり、アドバイスを頂いている。ホームとして飲料水20L、食材2日分(厨房にも2日分)の食料が確保され、蓄電(3h半)体制も整えられている。計画停電に向けたマニュアルも作成中である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に寄り添い、目線に合わせた姿勢や優しい静かなトーンの声掛け等、プライバシーにも配慮した丁寧な対応を心掛け実践している。	記録は個人が特定できるような個人名は避けると共に、個人情報保護の勉強会も行われた。“言葉マナー月間”という月も設け、職員全員で取り組みを続け、ご利用者ペースで行動できるように努めてきた。排泄の失敗時にも、自尊心を傷つけないような声かけに努め、お気持ちに応じて同姓介助も行われている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせた対応を行い、出来る限り自己決定が行えるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々や心身の状況を見ながら、その時々にあわせた対応を心掛けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前の生活状況を伺い、それに合わせた対応に努めている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好を把握しながら対応し、誕生日にお好きな物を召し上がって頂く等考慮している。準備や片付けは出来る範囲でお願いし、職員と共に行っている。年に数回バイキングや外食の機会を設けている。	ベランダで収穫できたじゃがいもで“お焼き”を作られたり、ミトマを収穫して食べられている。朝と夕食は施設厨房で作り、昼食時には、ご利用者と一緒に食事を作っている。ご利用者の好み等を取り入れ、もやしの根切りや配膳等、ご利用者も昼食作りのお手伝いをして下さっている。お寿司屋での外食も楽しまれている。	新人職員も業務に慣れてきている時期でもあり、ご利用者と一緒に行えるお菓子作りの機会を増やしていきたいと考えられている。“お焼き”作りの時のご利用者の表情が良く、今後、お力を発揮できる機会を作っていく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が確保出来るよう出来るだけこまめに摂って頂く等、個別で対応している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るだけ御本人の生活ペースに合わせてながら支援していくと共に義歯の消毒、歯科往診等必要に応じたケアをしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行いながら、出来るだけトイレで排泄して頂くよう努めている。	排泄が自立している方も多中、意思疎通が困難な方の排泄サインを見逃さないように努め、パットの交換枚数を減らすことができた。排泄に誘導が必要な方には、さりげなくアイコンタクトで意思確認と誘導を行ったり、リハビリパンツ交換のタイミングにも配慮し、トイレでの排泄が継続できるように努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関しては個々に合わせた対応を行い、出来るだけ自然排便となるよう食物繊維や乳製品を多く摂ってもらったり、体を動かしてもらおう等に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に毎日行い、個々の希望、体調、タイミングをみて時間を決めずに行っている。	入浴回数については、ご本人の希望や体力を考慮して行っている。湯船に入ることを大切にされているが、体調に応じてシャワー浴を行っている。早めの声かけを心掛け、できるだけ、お好みの時間に入浴できるようにしている。入浴時、職員との会話を楽しむと共に、菖蒲湯や柚子風呂等、季節に応じて楽しんで頂いている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせ、就寝、起床と特別時間を決めずに対応している。体力に応じ午睡の時間も設けている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬、状態を把握し、看護師、医師と連携を図りながら服薬支援を行っている。		



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた役割(野菜作り、配膳等)を設け、生活に少しでも張りをもって頂くよう努めている。気分転換に1階でお茶を飲んだり、屋上を散歩して頂くこともある。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に合わせて買い物や食事等、カンファレンスにて検討を行い、機会を少しでも多くもてるよう努めている。ボランティアの方にも協力頂いている。	週に1~2回は近くのスーパーや公園等に出かけている。お寺でのお花見、大濠公園の日本庭園、馴染みのお店にもお連れし、食事を楽しまれたり、大丸での買い物も楽しまれている。同階屋上にある広いベランダは見晴らしも良く、プランターでの野菜の収穫を楽しまれている。ベランダに椅子を出して、夏の花火大会を見る事もでき、良い気分転換の場所となっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人の意向も踏まえ、御家族と相談のうえ対応している。全員は難しいが所持している方については買い物の際御自分で管理をして頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は住所書きや投函のお手伝いをしている。電話については掛けたいときに対応している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の場として適したものとなるよう努めている。その時々の写真や季節の花、季節に合わせた飾りつけ等工夫している。室温管理、こまめな清掃に努めている。	リビングにはテーブルとソファーがあり、玄関横にもソファーが置かれている。リビングが広く、部屋からリビング、テーブルからソファー等への移動に時間を要するようになっているが、職員が付き添い、少しでも歩く機会を増やしている。廊下の壁には職員手作りの作品や日々の生活の写真を飾り、家族面会時の話題の一つにもなっている。窓の無いトイレがあり、消臭剤の利用と掃除を徹底している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々が自由に過ごせたり、気の合う方同士で自由に過ごせるベンチを配置する等工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れたものを持ち込んで頂き、御自宅での生活の延長と考えて頂くよう対応している。	家族にも協力頂きながら、馴染みの品物をお部屋に持参されている。以前、ご自分で作られた木彫りの家具が置かれ、絵画や、お誕生日に作成したメッセージボードも飾られている。床に座れるようにマットが敷かれ、編み物等の趣味を楽しまれている方もおられる。テレビや座イスなどを置き、居心地の良い空間が作られている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手摺りを設置し、テーブル等の高さにも配慮している。手の届く位置にアルバムを配置する等工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。

優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	地域の方々との交流を深めるために、運営推進会議への参加を呼びかけているが、参加者が限られてしまっている。	行事の時等集う機会を作り、お顔馴染みになって頂く。	民生委員の方等にも協力頂き、早めにお声掛けを行っていく。	12 ヶ月
2	5	市の職員の方と日頃から連絡を密に取り、協力関係を築いていけるよう、これまで以上に取り組む必要がある。	出来るだけ運営推進会議に参加して頂けるよう努める。	事前に日程の連絡を行い、不参加の場合には議事録を郵送し、ホームでの取り組みを理解して頂く。	12 ヶ月
3	6	施設の構造上、エレベーターは暗証番号を押して開けるシステムとなっており、外出の際には職員が付き添いエレベーターの操作を行っている。	ご利用者の立場に立った外出支援を継続して検討していく。	家族会や運営推進会議等でご家族のご意見も伺いながら、身体拘束に繋がらないよう前向きに検討していく。	12 ヶ月
4	42	食事の時間を楽しんで頂けるよう、ご利用者と共に調理を行う機会を増やす。	おやつ作りの機会を増やし、ご利用者の笑顔を引き出す。	屋上で収穫した野菜等を使い、1ヶ月に一度以上おやつ作りを行っていく。	12 ヶ月
5					ヶ月